



農福連携の推進について

令和4年10月

農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課
農福連携推進室

- 農福連携とは、障害者等の農業分野での活躍を通じて、自信や生きがいを創出し、社会参画を促す取組。
- 農林水産省では、厚生労働省、法務省、文部科学省と連携して、「農業・農村における課題」、「福祉(障害者等)における課題」、双方の課題解決と利益(メリット)があるWin-Winの取組である農福連携を推進。

「農」と福祉の連携(=農福連携)

【農業・農村の課題】

- ・農業労働力の確保
※毎年、新規就農者と同程度の農業従事者が減少
- ・荒廃農地の解消 等
※再生利用可能な荒廃農地は全国で約9万ha

障害者等が持てる能力を発揮し、それぞれの特性を活かした農業生産活動に参画

【農業・農村のメリット】

- ・農業労働力の確保
- ・農地の維持・拡大
- ・荒廃農地の防止
- ・地域コミュニティの維持 等



労働力の確保

【福祉(障害者等)の課題】

- ・障害者等の就労先の確保
※障害者約965万人のうち雇用施策対象となるのは約377万人、うち雇用(就労)しているのは約100万人
- ・工賃の引き上げ 等

【福祉(障害者等)のメリット】

- ・障害者等の雇用の場の確保
- ・賃金(工賃)向上
- ・生きがい、リハビリ
- ・一般就労のための訓練 等



新たな就労の場の確保

目指す方向

1 農業生産における障害者等の活躍の場の拡大

障害者等の雇用・就労の場の拡大を通じた農業生産の拡大。



2 農産物等の付加価値の向上

障害の特性に応じた分業体制や、丁寧な作業等の特長を活かした良質な農産物の生産とブランド化の推進。



3 農業を通じた障害者の自立支援

障害者の農業への取組による社会参加意識の向上と工賃(賃金)の上昇を通じた障害者の自立を支援。

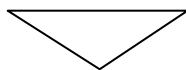


- 農業現場では、様々な種類の作物が生産され、それぞれ多岐にわたる作業が必要（加工等を含む）。障害者が取り組みやすいよう工夫することで、働き手としての可能性が拡大。
- 自らの経営の中で、生産工程や作業体系等の見直しを行い、生産の拡大など農業経営の発展につながっている事例もある。

障害者視点で農作業の体制を整備 (農業経営体における障害者雇用事例)



- 一連の作業工程を細分化し、それぞれの作業を標準化
- 誰もが作業を担えるような器具を開発
- 作業指示が伝わりやすいよう明確化したり、作業を難易度別に区分



<生産工程の効率化を図り、コスト意識を持ちながら生産を拡大>

障害者雇用数に比例し売上が6倍に

障害者ごとの強みをいかした作業チームの編成 (障害者就労施設の農業参入事例)



- 障害者それぞれ「収穫適期の判断ができる」、「体力がある」、「コミュニケーションが得意」等の特徴
- 各人の強みを相互にいかせるチームを編成し、連携して作業
- 作業効率が向上し、障害者だけでの作業も可能に



<障害者のそれぞれの強みが発揮されるよう作業を効率化>

適材適所の配置等により売上が4割増加

多岐にわたる農作業、周辺産業とのつながり

～畑作や園芸作物の農作業の例～

作付け計画

作物の種類、栽培場所、収穫・出荷量等を計画

種苗の購入

種や苗を購入

育苗

- ・土の敷詰め
- ・種まき
- ・新聞紙等で遮光する

苗を一定期間、発芽・育成

耕耘

ほ場を耕す

- クワ・スコップ
- トラクター

施肥

ほ場に肥料を施す

- 追肥
- 元肥
- 全面(全層)施肥
- 側状施肥

畝立て

土を寄せ上げて、盛り上がった場所(畝)を作る

- 管理機
- クワ

は種・定植(移植)

- すじまき
- 点まき
- ばらまき
- は種機
- 移植機

畝に種を播く、育苗した苗をほ場に植え付ける

- ・移植ごてで穴を掘る
- ・苗を穴に入れる
- ・土をかける

間引き

生育の良くない株等を引き抜いて良い株を残す

- ・溝を掘る
- ・マルチを伸ばす
- ・重しを載せる

マルチング

作物の周りを草・ワラ・ポリエチレンフィルムなどで覆う

- ・マルチシートの端をカットし、土をかける
- ・フィルムに指で穴を開け、ハサミで十字に切る

トンネル

畝の上に支柱を差してトンネル状にし、ビニールなどで被う

- ・支柱を半円状に差し込む
- ・支柱の上にビニールをかける
- ・ビニールを土に固定する
- ・ビニール上をバンドで固定する

受粉

花粉を雌花に付ける

- 虫媒・風媒
- 人工授粉

支柱立て

支柱を立てて伸びた茎を絡ませる

- 合掌式
- 直立式

誘引

支柱等に茎やツルを結んでいく

- 支柱
- ネット

整枝

枝の先端を切ったり、余分な芽を取り除く

- 摘葉
- 摘花
- 摘果
- 摘心
- 摘芽

病虫害防除・農薬散布

病気や虫の害を取り除く、農薬を作物にかける

- 物理的防除
- 生物的防除
- 化学的防除
- 耕種的防除

除草

雑草を抜き取る・刈り取る

- 刈払機
- モア
- ホー
- 除草ガマ

かん水

水やり

- ①育苗時
- ②は種時
- ③栽培期間中等

収穫

成熟した果実等を取る

- 手でもぎ取る
- 農具を用いて掘る
- 収穫用ハサミでカット

出荷調製 保存・貯蔵

収穫物の規格をそろえて、市場に出す準備をする

- ・余分な葉・根・皮を落とす
- ・洗浄
- ・大きさや重さで分別
- ・箱やバックに詰める

種子の採取・保存

使わなかった種や収穫物から採った種を保存

出荷

市場等に出す

- 市場
- 直売所
- 契約先

片付け・清掃

収穫を終えた畑やハウス内をきれいにする

加工

生産物を加工してジャムやジュース等を作る

- カット
- 調理
- 計量
- 洗浄
- 梱包・包装

販売・レストラン

農産物・加工品等販売、農家レストランで提供する

- 接客
- 調理
- 給仕
- 皿洗い



様々な形で取組が広がる農福連携

- 農福連携は、農業経営体による障害者の雇用、障害者就労施設による農業参入や作業受託など、近年、様々な形で取組が見られている。

農業経営体が障害者を雇用 京丸園(株) (静岡県)

- 平成8年から毎年1名以上の障害者を新規雇用。従業員99名中、障害者は24名(R2.10)。
- 障害者視点で農作業の体制を整備。作業効率化が進み、経営規模と生産量が拡大。
- 障害者雇用数に比例し売上増加(6倍に拡大(H9→R2))。



器具を工夫した定植作業



個人の目標を定め作業を実施

障害者就労施設が農業参入 (株)九神ファームめむろ (北海道)

- 地域における障害者活躍の場として設立。平成25年度から障害者約20名が、野菜生産や一次加工を実施。
- 利用者から支援スタッフへキャリアアップ実現。
- 平均賃金は北海道平均の約1.6倍と高水準(H29)。



野菜の加工処理



地域食材をレストランで提供

J Aが核となるマッチング J A松本ハイランド (長野県)

- 障害者就労施設による農作業請負のマッチングを、JAが核となって実施。
- 農家32戸が受け入れ、障害者就労施設11事業所の延べ1,161人が375回の農作業に従事(R元年度)。



作業内容の説明

企業が障害者雇用と農業参入 ハートランド(株) (大阪府)

- コクヨ(株)が子会社で障害者7名を雇用し、葉菜類を栽培。
- 特性を的確に見極めることで播種等で作業効率を向上。
- 障害者就労施設からも年間延べ約6千人の障害者を受け入れ。



サラダほうれん草を栽培

農福連携等推進ビジョンに基づく各種取組の推進

現状・課題

「知られていない」

- これまでは関心のある福祉関係者等を主なターゲットとしたセミナー等が中心で、国民全体への理解促進に向けた取組が十分行われてきていない。

「踏み出しにくい」

- 農業現場において障害特性を踏まえた助言等を行うことができる人材が不足している。
- 農業現場において障害者等を受け入れるためには、働きやすい環境を整備するとともに、農福連携の取組を通じ、その経営が経済活動として発展していくことが重要。

「広がっていない」

- 農福連携を全国的に広く展開させて、各地域において農福連携が定着するために、国・地方公共団体、関係団体等のもとより、経済界や消費者、更には学識経験者等の様々な関係者を巻き込んだ国民的運動として推進していくことが重要。

認知度の向上

取組の促進

取組の輪の拡大

対応

戦略的プロモーションの展開

- ノウフクJASを始めとするノウフク商品の消費者向けキャンペーンやメディアを活用した**戦略的プロモーションの実施**



ノウフクJAS認証第1号

農福連携を支援する専門的な人材の育成

- 農業分野における障害者の職場定着を支援する専門人材である「**農福連携技術支援者**」(いわゆる**農業版ジョブコーチ**)の**研修制度**を構築



人材育成研修(三重県の例)

農福連携に取り組む環境整備・経営発展の支援

- 農山漁村振興交付金(農福連携対策)により、障害者を受け入れる際に必要となる**休憩所や手すり等の安全施設**、障害者等の雇用就労を目的とした**農業用ハウスや加工施設等の整備**を支援



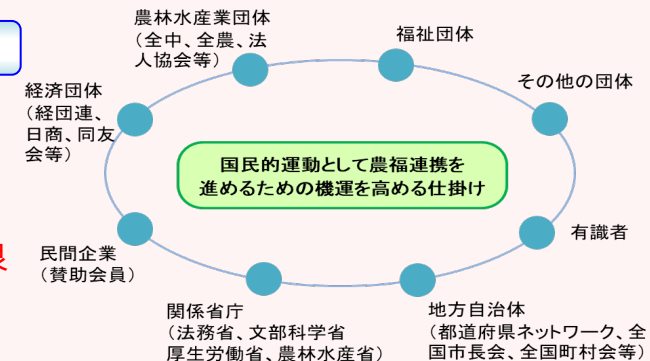
農業生産施設
水耕栽培ハウス



休憩所、トイレの整備

国民的運動を展開する基盤の形成

- 国民的運動として農福連携を進めるための機運を高める仕掛けとして、各界の関係者が参加する**コンソーシアムを設置**。今後、「ノウフク・アワード」選定による**優良事例の表彰・横展開**等を実施。





ここをクリックすると日本地図のページヘジャンプします

みんなで耕そう！ ノウフク・プロジェクト

ノウフク（農福連携等）が、社会にうねりを起こしています。
 ノウ（自然、農林水産業）とフク（人、福祉）の連携から、多様な役割と場をつくり、一人ひとりの存在を喜べる共生社会へ。地域の様々な課題を解決し、その価値が認められる市場の創出へ。豊かさの意味を問い直す、持続可能な未来へ。
 ノウフク・プロジェクトは、ノウフクの価値を循環させるためにみんなが主体になって参加できる、新しい社会デザインのおもしろみです。

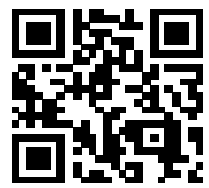
ノウフク・プロジェクトについて

ノウフクで毎日をちょっと幸せに

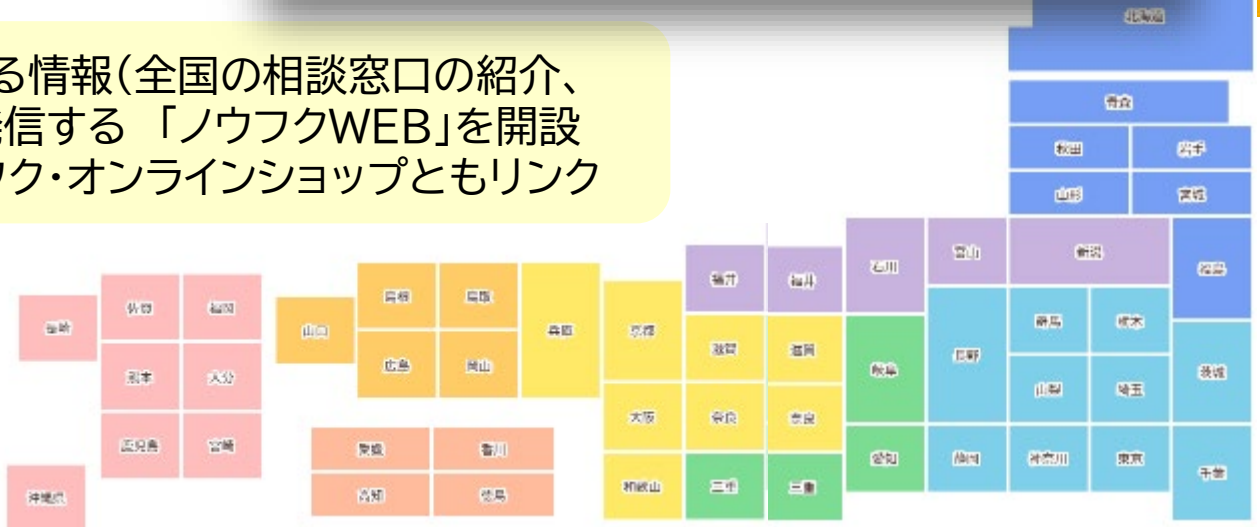
丁寧な心を込めて作られたものは、日常を少しだけ豊かにする。
 暮らしとほんの少しの距離を縮めたいと願う方をお繋ぎいたします。

NOW
 2021年8月16日～11月12日
 ノウフク・アワード
 2021 エントリー開始!!

- 令和3年3月、農福に関する情報(全国の相談窓口の紹介、ノウフク・マガジン等)を発信する「ノウフクWEB」を開設
- 農福商品を販売するノウフク・オンラインショップともリンク



ノウフクWEB
<https://noufuku.jp/>



農山漁村振興交付金（農山漁村発イノベーション対策）のうち 農山漁村発イノベーション推進・整備事業（農福連携型）

【令和5年度予算概算要求額 13,777（9,752）百万円の内数】

<対策のポイント>

農福・林福・水福連携の一層の推進に向け、障害者等の農林水産業に関する技術習得、障害者等に農業体験を提供するユニバーサル農園※の開設、障害者等が作業に携わる生産・加工・販売施設の整備、全国的な展開に向けた普及啓発、都道府県による専門人材育成の取組等を支援します。

※ 農業分野への就業を希望する障害者等に対し農業体験を提供する農園

<事業目標>

農福連携に取り組む主体を新たに創出（3,000件 [令和6年度まで]）

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 農山漁村発イノベーション推進事業（農福連携型）

① 農福連携支援事業

障害者等の農林水産業に関する技術習得、作業工程のマニュアル化、ユニバーサル農園の運用、移動式トイレの導入等を支援します。

【事業期間：2年間、交付率：定額（上限150万円等）】

② 普及啓発・専門人材育成推進対策事業

農福・林福・水福連携の全国的な横展開に向けた取組、農福・林福・水福連携の定着に向けた専門人材の育成等を支援します。

【事業期間：1年間、交付率：定額（上限500万円等）】

2. 農山漁村発イノベーション整備事業（農福連携型）

障害者等が作業に携わる生産施設、ユニバーサル農園施設、安全・衛生面にかかる附帯施設等の整備を支援します。

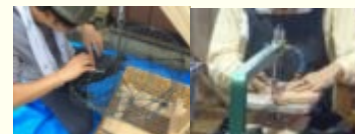
【事業期間：最大2年間、交付率：1/2（上限1,000万円、2,500万円等）】

1. 農山漁村発イノベーション推進事業（農福連携型）

① 農福連携支援事業



農産加工の実践研修



養殖籠補修・木工技術習得



移動式トイレの導入



ユニバーサル農園の運用

② 普及啓発・専門人材育成推進対策事業



普及啓発に係る取組



人材育成研修

2. 農山漁村発イノベーション整備事業（農福連携型）



農業生産施設（水耕栽培ハウス）



苗木生産施設



養殖施設



休憩所、トイレの整備

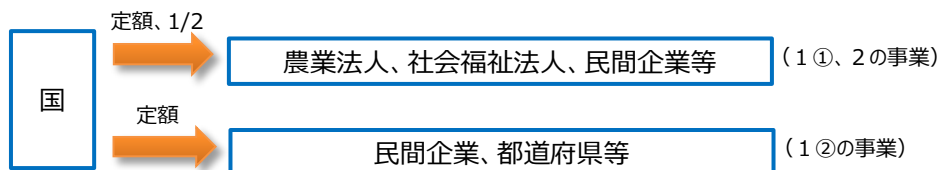


園地、園路整備



処理加工施設

<事業の流れ>



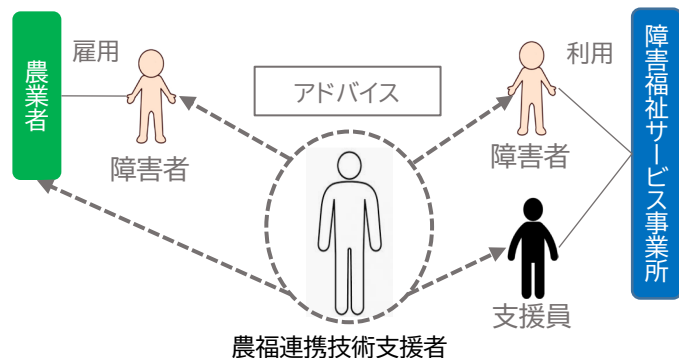
【お問い合わせ先】 農村振興局都市農村交流課（03-3502-0033）

- 令和元年6月に決定した農福連携等推進ビジョンにおいて、「農業版ジョブコーチの仕組みを**全国共通の枠組み**として構築し、専門人材を育成する」としており、令和2年度から、「**農福連携技術支援者育成研修**」(いわゆる「農業版ジョブコーチ育成研修」)を**全国共通の枠組み**として実施。
- 本研修は、農林水産省が農林水産研修所つくば館水戸ほ場で実施するほか、研修プログラムを農林水産省が策定した**基準プログラム**に準拠させることで、**都道府県が実施することも可能**。
- 農林水産省は、全ての研修課程を受講し、必要な知識と技術を身につけたと認められる者を研修修了者として認定。認定された者は、「**農福連携技術支援者(農林水産省認定)**」として、現場において支援。

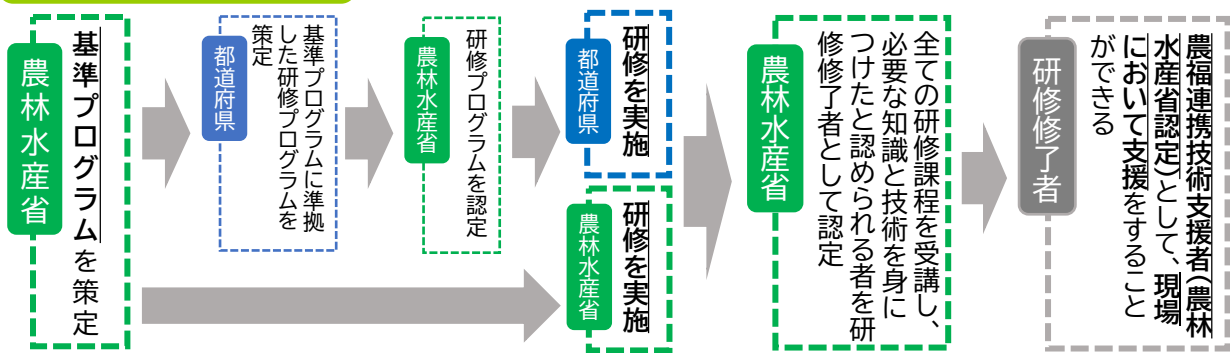
1. 育成する人材

農福連携技術支援者

- ① 農業者
 - ② 障害福祉サービス事業所の支援員
 - ③ 障害者本人
- の3者に対し、具体的に、農福連携を現場で実践する手法をアドバイスする人材。



2. 育成の枠組み



3. 基準プログラム

研修形式と期間

- (1) 座学講義3日間程度
- (2) 演習・実地研修4日間程度
- (3) 修了試験(農林水産省が作成)

カリキュラム

- ・ 障害者雇用と障害福祉サービス事業の仕組み
- ・ 障害特性と職業的課題の基礎
- ・ 障害特性に対応した農作業支援技法
- ・ 農業者による農福連携の経営実務
- ・ 農作業における作業細分化・難易度評価の技法など

4. 研修の受講者

受講対象者

農業・福祉等の関係者を幅広く想定

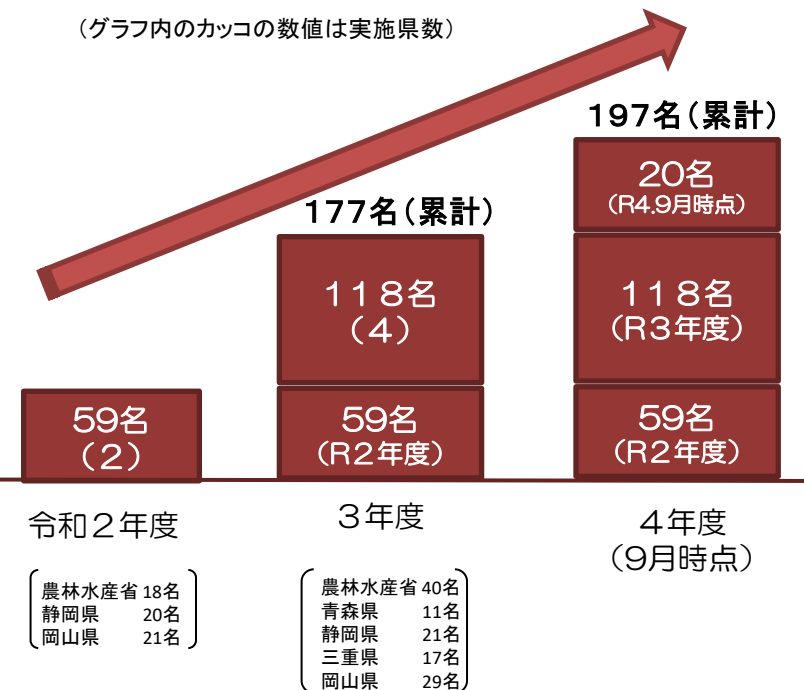
受講定員

各回につき20名程度

- 農林水産省は、令和2年度から「農福連携技術支援者育成研修」を全国共通の枠組みとして実施。
- 令和2年度は、59名の農福連携技術支援者を認定（農林水産省及び2県で研修実施）。
- 令和3年度は、118名の農福連携技術支援者を認定（農林水産省及び4県で研修実施）。
- 令和4年度は、9月時点で20名を認定（農林水産省及び7県で研修実施予定）。
- 都道府県においては、独自の農業版ジョブコーチ、施設外就労コーディネーター等の専門人材の育成も実施。
- 農林水産省の研修により農福連携の専門人材を育成するとともに、都道府県の体制構築の支援も行い、都道府県が自律的に専門人材の育成ができるよう引き続き支援。

● 農福連携技術支援者数（認定実績）

（グラフ内のカッコの数値は実施県数）



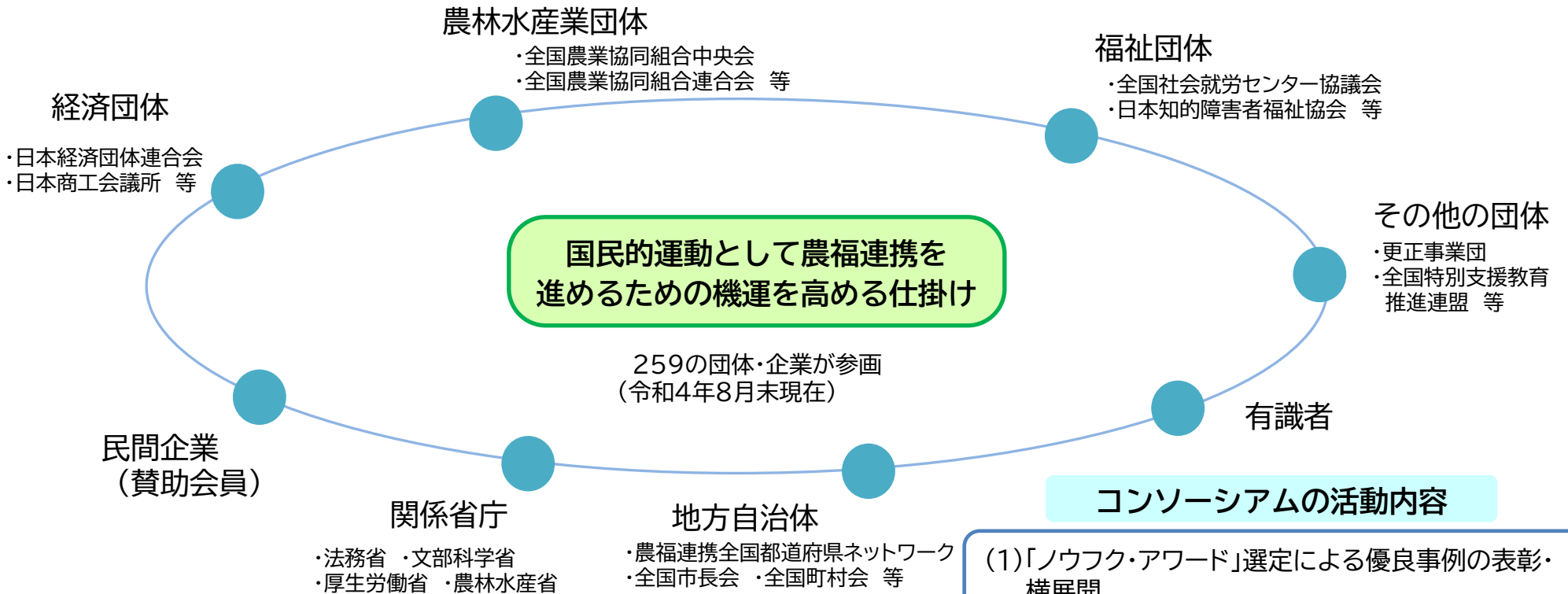
● 農福連携技術支援者研修実施県

令和2年度	静岡県、岡山県
3年度	青森県、静岡県、三重県、岡山県
4年度 (予定)	静岡県、富山県、愛知県、三重県、岡山県、高知県、宮崎県



- 国、地方公共団体、関係団体等はもとより、経済界や消費者、更には学識経験者等の様々な関係者を巻き込んだ国民的運動として農福連携等を展開していくため、令和2年3月、各界の関係者が参加し、農福連携等を応援するコンソーシアムを設立。

農福連携等応援コンソーシアムの構成



コンソーシアムの活動内容

- (1)「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開
- (2)農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催
- (3)農福連携等に関係する主体の連携・交流の促進
- (4)農福連携等に関する情報提供 等

○全国で農福連携に取り組む団体・企業や個人を募集し、農福連携の優れた取組をノウフク・アワードとして表彰。国民運動としての機運を高め、農福連携の全国的な展開につなげることを目的として開催。

○令和2年度にノウフク・アワード2020を初開催。令和3年度のノウフク・アワード2021においては、「人を耕す」「地域を耕す」「未来を耕す」との観点から優れた取組を表彰するとともに、農福連携の新たな動きや広がりに着目し、「フレッシュ賞」、「チャレンジ賞」を新設。

○令和4年度のノウフク・アワード2022においては、前年度の枠組みを維持しつつ、「審査員特別賞」を「準グランプリ」へと呼称変更を行った上で開催。

ノウフク・アワード2022

- ・募集期間：令和4年8月3日（水）～10月3日（月）
- ・表彰式：令和5年2月に開催予定
- ・概要：人を耕す、地域を耕す、未来を耕すとの観点から優れた取組に対し以下の賞を授与
「グランプリ」「準グランプリ」「優秀賞」
「フレッシュ賞」（取組開始5年以内の優れた取組）
「チャレンジ賞」（「農」や「福」の広がりに向けた取組）

農福連携の優れた取組の横展開へ



みんなで耕そう！

2022
ノウフク
アワード
NOUFUKU AWARD
2022

ノウフク・アワード 2022
2022年8月3日（水）～10月3日（月）
エントリー受付中！
2022年8月3日（水）～10月3日（月）
nouvuku.jp/award



全国の地方からノウフク・アワード2022の応募が殺到しています。

2022
ノウフク
アワード
NOUFUKU AWARD
2022

エントリー受付中！
2022年8月3日（水）～10月3日（月）

ノウフクは農福連携の取り組みが、社会を豊かにする取組を応援し、全国に誇れる取組に表彰する国民運動です。全国に誇れる取組に表彰する国民運動です。

審査員特別賞
グランプリ
準グランプリ
優秀賞
フレッシュ賞
チャレンジ賞

ノウフク・アワード2022
応募はこちらから | nouvuku.jp/award

詳しい取組概要は
こちら「QRコード」



No. 4 静岡県 浜松市

京丸園株式会社

- ・障害者と健常者の垣根がないユニバーサル農業の取組
- ・農作業や施設環境は障害者目線で工夫

グランプリ

No. 7 京都府 京田辺市

さんさん山城

- ・地域特産・地産地消・6次産業・地域活性化の取組を推進
- ・ノウフクJASと京野菜の普及啓発、地産地消に貢献

グランプリ

No. 2 群馬県 前橋市

社会福祉法人ゆずりは会 菜の花

- ・平均工賃が全国平均の3倍とモチベーション維持に寄与
- ・利用者にあった作物を栽培し年間就労の維持に貢献

審査員特別賞 (人を耕す)

No. 5 新潟県 佐渡市

特定非営利活動法人立野福祉会 障がい者就労トレーニングファームチャレンジド立野

- ・農福連携が地域活性化や地域農業の維持に貢献

審査員特別賞 (地域を耕す)

No. 10 徳島県 徳島市

株式会社菜々屋

- ・JAと連携し障害者と親和性の高い有機農業を推進
- ・農作業受託を行い地域の農業労働力に貢献

審査員特別賞 (未来を耕す)

No. 11 高知県 安芸市

安芸市農福連携研究会

- ・生きづらさを抱えた者への理解が広がり地域活性化に貢献
- ・農福現場の一つ一つの課題解決への取組の推進

審査員特別賞

No. 8 大阪府 和泉市

株式会社いずみエコロジーファーム

- ・ノウフクJAS取得し消費者に対してノウフクの普及に尽力
- ・販路・雇用・賃金の安定が地域農業の維持に貢献

優秀賞

No. 1 青森県 おいらせ町

社会福祉法人誠友会 工房あぐりの里

- ・農福連携の取組が地域農業の維持・交流人口の増加に貢献
- ・企業・農業経営体・社会福祉法人等、多様な連携

優秀賞

No. 3 千葉県 木更津市

特定非営利活動法人 一粒舎

- ・農地の受け手となり荒廃農地の発生抑制に貢献
- ・観光農園と施設園芸により高工賃の実現

優秀賞

No. 6 三重県 鈴鹿市

株式会社イシイナーセリー

- ・障害者雇用を通じて地域の植木産業を支える取組を推進
- ・高賃金の実現と一般就労へのつながりに貢献

優秀賞

No. 9 和歌山県 紀の川市

社会福祉法人一麦会 ソーシャルファーム もぎたて

- ・付加価値のある商品作り等中山間地域の維持・発展に貢献

優秀賞

No. 12 宮崎県 宮崎市

一般社団法人STEPUP CoCoRo事業所

- ・矯正者も受け入れ、再犯防止や更正支援に貢献
- ・農福連携が地域の中心的担い手の育成に貢献

優秀賞

No. 13 鹿児島県 龍郷町

株式会社リーフエッジ あまみん

- ・障害者への個別支援及びQOLの向上への取組
- ・自治体・商工会等と連携し販路の開拓や事業創出に貢献

優秀賞

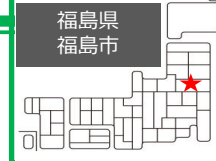


フレッシュ賞

- No. 14 新宿区障害者福祉事業所等ネットワーク (東京都新宿区)
- No. 15 特定非営利活動法人わっこ谷の山福農林舎 (長野県東筑摩郡筑北村)
- No. 16 CuRA! (新潟県新潟市)
- No. 17 株式会社JAぎふ はっぴいまるけ (岐阜県岐阜市)
- No. 18 遊士屋株式会社 (三重県伊賀市)
- No. 19 うりずんファーム ウィルチャーファーム (沖縄県沖縄市)

チャレンジ賞

- No. 20 社会福祉法人青森県すこやか福祉事業団 (青森県平内町)
- No. 21 福島県立大笹生支援学校 (福島県福島市)
- No. 22 帝人ソレイコ株式会社我孫子農場 ポレポレファーム (千葉県我孫子市)
- No. 23 社会福祉法人進和学園しんわろネッサンス (神奈川県平塚市)
- No. 24 社会医療法人正光会さんさん牧場 (島根県益田市)
- No. 25 社会福祉法人太陽福祉会 (和歌山県御坊市)



農業体験を通じて、「将来の職業選択肢の幅を広げるための農業の魅力の発信」や「農業体験という校外活動を通して食の大切さや流通などを総合的に学習するとともに、生徒の新たな可能性を広げる」ことを目的として、学校と農業法人・J A福島中央会が連携して農業体験を実施。

基本情報

- 所在地：福島県福島市
- 団体名：福島県立大笹生支援学校
- 取組パターン：中間支援の取組
- 主力商品・イベント：長ネギ、長ナス



(収穫するナスの大きさの説明)

取組の概要

- フルーツの生産が盛んな地域に位置した学校として、校内に畑や樹園地があったが校舎の増築などにより、校内圃場がなくなり農業体験が難しい状況になった。一方、学習活動の中では農作業にも取り組んでいたが、原発事故（東日本大震災）の影響により、屋外での栽培ができなくなっていた。
- しかし、農作業は児童生徒にとって必要な学習と考え、土の入れ替えや収穫物の放射性物質検査などを行いながら、じゃがいも栽培などを行っていた。
- 令和2年度にJ A福島中央会より、「将来の職業選択肢に農業も入れてもらうための農作業体験会にご協力いただけないか」との依頼があり、農業体験復活の足掛かりとして受託し、令和3年度で2年目の活動となっている。

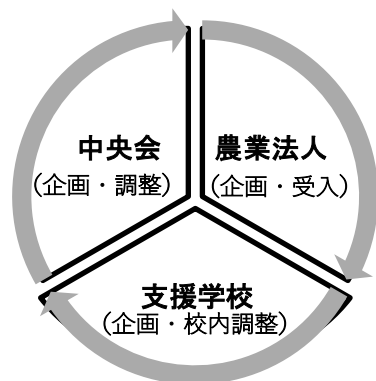


(野菜結束機の体験)



(スコップを使ってのネギの収穫)

体制図



取組の成果

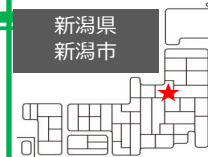
- 野菜の収穫から調製作業を体験することを通し、農業への興味・関心が高まった。
- 実際に農業に従事している方々に、特別支援学校(知的障害)の生徒と関わっていただくことで、生徒への理解を深めていただくことにつながっている。
- 生徒への作業方法の説明のやり方など、引率教員を通して、生徒が理解できる説明方法などで伝え農作業を知る機会となった。

所在地 ▶ 福島県福島市大笹生字廻板山1 8 2 番地の2

連絡先 ▶ TEL：024-558-8710 FAX：024-556-0416

E-mail：ohzasou-sh@fcs.ed.jp

ウェブサイト ▶ <https://ohzasou-sh.fcs.ed.jp>



「一から全て」、「一流のものを一流のお店に使ってもらう」ことをコンセプトに、畑74aとハウス1棟で主にハーブ類、リーフレタス、新潟在来種の野菜を、農薬・肥料・除草剤を使わず栽培し、加工、包装、販売までのすべての作業工程を農福連携で行う。農産物を加工することで長期保存を可能とし、付加価値をつけ収入アップを図るとともに、障害者の活躍の場を増やし、「やり甲斐」を育てていく。

基本情報

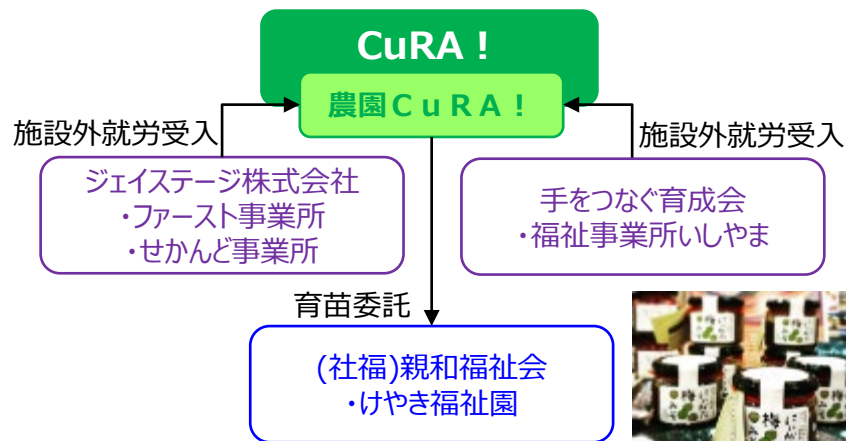
- 所在地：新潟県新潟市
- 団体名：CuRA！（ちゅら）
農園CuRA!
- 取組パターン：連携型
- 主力商品・イベント：
ハーブ、ハーブ加工品、レモン、ジャム、
ドレッシング、在来種野菜、味噌加工品

取組の概要

- 農園CuRA!は、当園スタッフと健常者1名、パート雇用2名、施設外就労受入を2箇所の事業所から行い、育苗作業を1事業所に委託し、経営している。
- 除草や耕耘等の圃場整備から播種、間引き、剪定、収穫、出荷準備、検品、販売等のすべての作業工程に障害者が関わり、責任とやり甲斐を感じることで、生産量・品質向上に繋がっている。
- 新潟市内の特別支援学校の生徒の受入を2018年から毎年実施し、施設外就労の利用者とチームを組み、切磋琢磨しながら協働作業を行っている。
- 周辺農家が生産している果物や野菜と、ハーブを組み合わせ、ドレッシングやジャム等の加工品を製造し、県外でも販売している。
- 2019年には、輸出を視野に入れ、ロシア・フランス・シンガポールへサンプル輸出を実施。
- 2020年から複数の福祉事業所とともに、赤しその栽培から加工を施設の設定の設備や技術に合わせ作業分担し、商品製造をし、一般販売が決定した。

項目	単位	取組当初	H28年	H29年	H30年	R元年	R 2年
障害者数	人	3		3	6	10	17
農地面積	a	54		54	61	61	72
障害者月平均賃金	千円			12,000	24,000	139,440	338,640

体制図



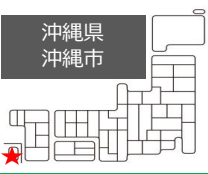
取組の成果

- 障害者の得意を伸ばすことで新たにできる作業が増え、生産性が3倍以上アップし、販路拡大と売上向上に繋がった。
(2019年：430万円→2020年：834万円)
- 障害者就労者数も、取組当初より増加している。
(2017年：3名→2020年：17名)
- O E M、P B商品の受託が可能となった。



所在地▶新潟県新潟市江南区嘉瀬3336-4
 連絡先▶TEL:090-8724-6050 FAX:—
 E-mail:niigata_herb_cura@icloud.com
 ウェブサイト▶<https://www.facebook.com/niigata.herb.cura>





子ども食堂との連携や農場での不登校児の受け入れを経て、車椅子での作業に特化した農場を設立。各所との幅広い連携により、多様な人材の就労の場、交流の場の確保を目指す。

基本情報

- 所在地：沖縄県沖縄市
- 団体名：うりずんファーム
- 取組パターン：連携型
- 選定表彰：
 - ・2013～2020年 中部ファーマーズマーケット生産量No.1 (JAおきなわ)
 - ・H30 JAおきなわ青壮年大会 (青年の主張発表の部) 最優秀賞
 - 同九州大会 日本農業新聞賞
 - ・2021年 毎日農業記録賞 優秀賞
- 主力商品・イベント：
 - 葉物野菜、低カリウム野菜等

取組の概要

- 車椅子に特化した農場を作り上げるため、2021年ウィルチャーファームを設立。
- ハウス内での車椅子目線の導線は健常者では見つけにくいため、「障害者就業・生活支援センター花灯」の協力のもと、身体障害者の職場体験を実施。健常者が隣に居なくても作業できるシステムづくりを心掛けている。
- 沖縄の大きな課題である子どもの貧困の解決に寄与すべくファーマーズマーケットと共に子ども食堂への野菜の提供に取り組み、子ども達に農産物の生産から出荷までの課程を教える取組を継続して実施。
- 「こどもの居場所 美ら団子」へは野菜の販売委託も行っており、腎臓を患った方向けの低カリウム野菜の販売開拓にも繋がった。
- ウィルチャーファーム設立と併行し、就労継続支援サービスを行う「NPO法人大夢」と連携開始。農場拡大で増加した作業を委託。
- 高等特別支援学校の職場体験を受け入れ、2週間の実習期間中に野菜の原価計算ができるまでに指導。実習生の自信に繋がっている。
- 農場で不登校児を受け入れ、社会との接点を作る手助けを実施。



車椅子(=ウィルチャー)の作業に配慮した農場

体制図



取組の成果

- 障害や生きづらさを抱える方の出来ることを増やして作業を担ってもらうことで、経営者として新たなチャレンジや経営規模の拡大が可能となった。
- 各所との連携が野菜のPRに繋がっている。
- 営農開始(2012年) ⇒ 2020年の取組実績の推移

就労障害者数	0人	⇒	8人
売上高	6,000千円	⇒	22,000千円



子ども食堂との農産物販売の様子

所在地 ▶ 沖縄県沖縄市池原3232-2
 連絡先 ▶ E-mail: urizun1852@gmail.com

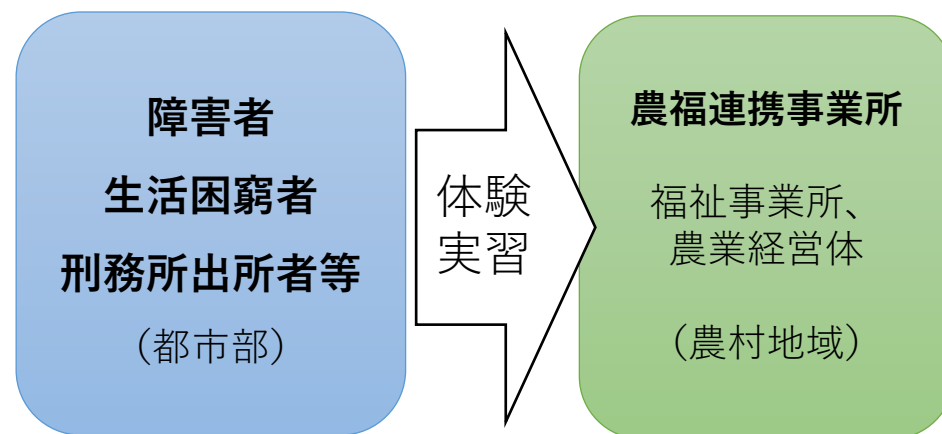
農福体験実習ツアー事業

令和4年度 農林水産省 公募事業「農福連携の「福」への取組拡大等の推進」

目的 農福連携の「福」への取組拡大を加速させるため、障害者等が農業現場を将来の就労の場として選択することに資する農作業体験実習等の場を提供するモデルの構築

体験実習ツアー概要

- 対象 : 障害者（特別支援学校の生徒を含む）、生活困窮者、刑務所出所者等
- 実施日程 : 令和4年11月～令和5年3月
1泊2日、または日帰りで複数回
- 受入先 : ゆずり葉会 菜の花（群馬）、埼玉福興（埼玉）、京丸園（静岡）、さんさん山城（京都）、博愛会（大分）
- 参加費用 : 補助金適用により割引価格で募集
- 事業企画 : 一般社団法人 日本農福連携協会
- ツアー実施 : 株式会社 農協観光



日本農福連携協会（企画・マッチング）
株式会社 農協観光（ツアー実施）

I 農福連携等の推進に向けて

農福連携は、農業と福祉が連携し、**障害者の農業分野での活躍**を通じて、**農業経営の発展**とともに、**障害者の自信や生きがい**を創出し、**社会参画を実現**する取組。年々高齢化している農業現場での**貴重な働き手**となることや、**障害者の生活の質の向上**等が期待

農福連携は、**様々な目的の下で取組が展開**されており、これらが**多様な効果を発揮**されることが求められるところ

持続的に実施されるには、**農福連携に取り組む農業経営が経済活動として発展**していくことが重要で、個々の取組が地域の農業、日本の農業・国土を支える力になることを期待

農福連携を全国的に広く展開し、**裾野を広げていく**には「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていかない」といった課題に対し、官民挙げて取組を推進していく必要

また、**ユニバーサルな取組**として、高齢者、生活困窮者等の就労・社会参画支援や**犯罪・非行をした者の立ち直り支援**等、様々な分野にウイングを広げ、**地域共生社会の実現**を図ることが重要(SDGsにも通じるもの)

農福連携等の推進については、引き続き、関係省庁等による連携を強化

II 農福連携を推進するためのアクション

目標: 農福連携に取り組む主体を新たに3,000創出*

1 認知度の向上

- ・**定量的なデータ**を収集・解析し、農福連携の**メリット**を客観的に提示
- ・優良事例をとりまとめ、各地の様々な取組内容を**分かりやすく情報発信**
- ・**農福連携で生産された商品**の消費者向けキャンペーン等の**PR活動**
- ・農福連携マルシェなど**東京オリンピック・パラリンピック**等に合わせた**戦略的プロモーション**の実施

2 取組の促進

○ 農福連携に取り組む機会の拡大

- ・**ワンストップで相談できる窓口体制の整備** ・**スタートアップマニュアル**の作成
- ・試験的に農作業委託等を短期間行う「**お試しノウフク**」の仕組みの構築
- ・**特別支援学校**における農業実習の充実
- ・農業分野における**公的職業訓練**の推進

○ ニーズをつなぐマッチングの仕組み等の構築

- ・**農業経営体と障害者就労施設等のニーズをマッチングする仕組み**等の構築
- ・**コーディネーターの育成・普及**
- ・**ハローワーク等関係者**における連携強化を通じた、**農業分野での障害者雇用の推進**

○ 障害者が働きやすい環境の整備と専門人材の育成

- ・**農業法人等への障害者の就職・研修等の推進**と、障害者を新たに雇用して行う**実践的な研修の推進**
- ・障害者の**作業をサポートする機械器具、スマート農業の技術**等の活用
- ・**全国共通の枠組み**として**農業版ジョブコーチの仕組み**の構築
- ・**農林水産研修所**等による**農業版ジョブコーチ**等の**育成**の推進
- ・**農業大学校や農業高校**等において**農福連携を学ぶ取組**の推進
- ・**障害者就労施設**等における**工賃・賃金向上の支援の強化**

○ 農福連携に取り組む経営の発展

- ・**農福連携を行う農業経営体**等の**収益力強化**等の**経営発展**を目指す取組の推進
- ・**農福連携の特色**を生かした**6次産業化の推進**・**障害者就労施設**等への**経営指導**
- ・**農福連携でのGAPの実施**の推進

3 取組の輪の拡大

- ・各界関係者が参加する**コンソーシアム**の設置、優良事例の表彰・横展開
- ・**障害者優先調達推進法**の推進とともに、**関係団体**等による**農福連携の横展開**等の推進への期待

III (農)福連携の広がりの推進

「農」と「福」のそれぞれの広がりを推進し、農福連携等を地域づくりのキーワードに据え、**地域共生社会の実現**へ

1 「農」の広がりへの支援

林業及び水産業において、特殊な環境での作業もあることにも留意しつつ、障害特性等に応じた、マッチング、研修の促進、経営発展を目指す取組の推進、林・水産業等向け**障害者就労のEPL事業**の創設

2 「福」の広がりへの支援

高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者等の働きづらさや生きづらさを感じている者の**就労・社会参画の機会**の確保や、**犯罪や非行をした者**の立ち直りに向けた取組の推進

- 平成31年4月、農福連携の全国的な機運醸成を図り、今後強力に推進するため、内閣官房長官を議長とした省庁横断の「農福連携等推進会議」を設置。令和元年6月には、同会議において、今後の取組の方向性を「農福連携等推進ビジョン」として決定。
- ビジョンでは、今後5年で、農福連携に取り組む主体を新たに3,000創出するとの目標を掲げた。
(*注：令和元年度末から、令和6年度末にかけて)
- 農林水産省は、この目標の達成に向けて、農福連携の取組主体数の現状を把握するために、関係機関と連携して調査を実施し、令和3年度末時点において把握した結果を取りまとめた。

令和3年度末時点において把握した農福連携の取組主体数の内訳

(括弧内は前年度調査結果)

①農業経営体等による取組

農林水産省・都道府県・JA全中・JA全農調べ

取り組んでいる農業経営体等数 (a)	2,672 (2,121)
【参考】全国の農業経営体等数 (b) (2022年農業構造動態調査から)	975,100
【参考】(a) / (b)	0.27%

令和3年度において取り組んでいた農業経営体・JA

②特例子会社による取組

農林水産政策研究所調べ

取り組んでいる特例子会社数 (a)	50 (49)
【参考】全国の特例子会社数 (B) (令和3年6月1日時点)	562
【参考】(a) / (b)	8.90%

令和3年度において取り組んでいた特例子会社

③障害者就労施設 (A型) による取組

厚生労働省・都道府県調べ

取り組んでいるA型事業所数 (a)	544 (452)
【参考】全国のA型事業所数 (b)	3,757
【参考】(a) / (b)	14.48%

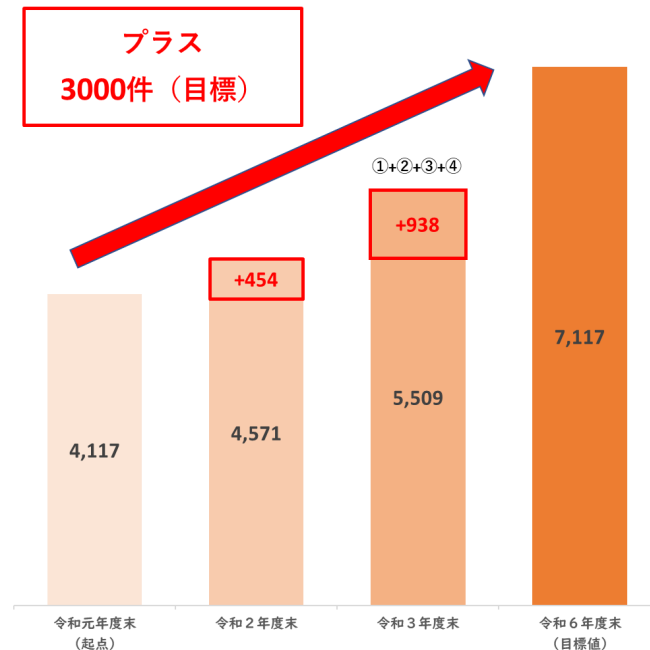
令和2年度において取り組んでいた障害者就労施設

④障害者就労施設 (B型) による取組

厚生労働省・都道府県調べ

取り組んでいるB型事業所数 (a)	2,243 (1,949)
【参考】全国のB型事業所数 (b)	13,441
【参考】(a) / (b)	16.69%

令和2年度において取り組んでいた障害者就労施設



「BUZZMAFF」とは、農林水産省職員が、その人ならではのスキルや個性を活かして、我が国の農林水産物の良さや農山漁村の魅力を発信する動画チャンネルです。「農福連携に取り組む現場を体感してもらうこと」をテーマとした動画を作成し、情報発信しています。



「公務員の4時起き出張 in京都」

ノウフク・アワード2021のグランプリを受賞したさんさん山城を訪問し、ろう者の皆さんと手話を用いながら京野菜の定植を行う様子などを通じて、農福連携やさんさん山城の取組をご紹介します。

【全力】白石がお店を盛り上げてみた

農福連携に取り組んでいる事業者が製造した商品をMUJI新宿の「つながる市」で販売した際の様子を取材し、事業者や消費者の皆さんと交流しながら農福連携の取組をご紹介します。



約18万回再生！
※令和4年9月26日現在



<https://www.youtube.com/watch?v=5LeZhRD6KhM>



約3万回再生！
※令和4年9月26日現在



<https://www.youtube.com/watch?v=FOtwrVKyFvE>